野田はまなす会会報
No. 59　令和元年９月

はまなす通信

発行：野田はまなす会 / 編集：野田はまなす会事務局（野田村役場未来づくり推進課）☎ 0194・78・2963

第31回野田はまなす会総会・交流会
令和初めての総会・交流会！

令和元年６月30日（日）午後１時より、霞ヶ関ビルの東海大学校友会館において、第31回野田はまなす会総会・交流会が開催されました。

平成30年度事業報告、収支決算報告及び令和元年度事業計画案、収支予算案、会則改正案（本会の村の事務局が、今まで「総務課」に置かれていたものを、村の組織改編にともない「未来づくり推進課」に置くとするもの。）が提案通り承認されました。

今年は参加者が52名と、例年と比べ３割程度少ない人数でしたが、会場の各テーブルでは和気あいあいとした雰囲気でいい時間を過ごせました。

交流会では会員の米持あや子さんによる日本舞踊の披露がありました。25年程稽古をしているそうで、品のある舞踊で会を盛り上げてくださいました。また、ハイクラソーナによる懐かしい曲の生演奏を聞きながら同席したテーブルで野田村の懐かしい思い出を語り合う贅沢でステキな交流会となりました。

ハイクラソーナさんのどこか懐かしい演奏

村の現状について村長からスライドで紹介されました。東日本大震災から８年余りが経過しており、村でのハード面の整備が順調に進んでいることがわかりました。村の取り組みや現状について最新情報を毎年伝えていただいております。

総会・交流会の参加者の大半が２次会にも参加し、名残惜しく解散しました。

（副幹事長　志村良子）

野田の情景を思い浮かべ、「ふるさと」を歌いました

日帰りレクリエーション
鎌倉散策・鶴岡八幡宮見学

開催日時　10月６日（日）10：00集合
集合場所　鎌倉駅東口（JR横須賀線）
アクセス　①東京駅→鎌倉駅
　（JR横須賀線　57分/920円）
　②新宿駅→鎌倉駅
　（JR横須賀線直通新宿ライン　58分/920円）
　※会旗を持って、鎌倉駅東口で待っています。
目的地　鎌倉、鶴岡八幡宮
費　用　食事代（約2,000円）、交通費は各自負担です。
　参加者は下記宛て早めにご連絡下さい。
申し込み　幹事長　坂本　悟　090・4841・3612
　副幹事長　志村良子　090・4134・2239
　担当幹事　大沢直人　090・8644・8673

ごあいさつ

野田はまなす会
会長　久慈士郎

会員の皆様におかれましては、つつがなくお過ごしのこととお慶び申し上げます。

日頃より野田はまなす会の運営に格別のご理解とご協力を頂き誠にありがとうございます。

さて、6月30日開催の「野田はまなす会」総会・交流会にたくさんの方々の出席を頂き有難う御座いました。野田村からは小田祐士村長、貳又正人村議会議長、大沢政廣出稼ぎ地域相談員と遠路にも関わらずおいでいただき、心から感謝を申し上げます。

小田村長、貳又議長さんからは、東日本大震災から8年経過した村の現況の説明があり、復旧復興事業は目に見える形で進んでいる事、これからは本格的に軸足を地域の創生、村が抱える諸課題に向け復興発展へと次のステージに移行している事。具体的には「子育てしやすい村」、「住み続けたい村」、「人と人のつながりを大切にする村」の活性化に向けての事業計画等について、ご説明をいただきました。

ふるさと交流会においては、トランペット、ピアノによる「あ　上野駅」の生演奏に続き、はまなす会の会員である米持あや子さんによる日本舞踊の演舞がありました。艶やかな舞踊を鑑賞しながら各テーブルでは屈託なき幼少時代の思い出話し等に花が咲きました。話し声、笑い声が響き渡り会員相互の交流が一層深められたものと確信しております。

会員の皆様には、この様な交流会の機会をとらえ、野田中学校卒業年度ごとの同級会等に活用できれば、会員数の拡大にもつながるものと思っております。同級会等の希望があれば本部役員にご連絡下さい。実現できるようにご支援したいと思います。

令和という新しい時代を迎え、良き習慣は継続し、変革すべき所は改め、役員一同団結し、首都圏でご活躍の野田村出身の方々に本会の集い等が心の支えになれる様、安定した運営に努めてまいります。

末筆になりますが、野田村の益々の活性化と発展、会員の皆様のご健勝をお祈りするとともに、新たに野田はまなす会の事務局を担当していただく、「未来づくり推進課」神田康弘課長、廣内鉄也総括主査、また、福引きの景品等でお世話になりました観光物産ぱあぷるの皆様に感謝申し上げ、あいさつといたします。

友好団体との交流

久慈高校同窓会東京支部

令和元年6月29日（土）、東海大学校友会館で「岩手県立久慈高等学校同窓会東京支部（外館　悟会長）」の総会及び懇親会が80余名の出席者で開催され、野田はまなす会から桜庭昌吾顧問が出席しました。

久慈高校は昭和18年県立久慈高等女学校として開校。昭和23年学制改革により岩手県立久慈高等学校と改称。同24年に久慈農業高等学校と統合し、岩手県立久慈高等学校となりました。同38年に久慈農林水産高校に分離独立、同40年に京の森校舎から畑田校舎に移転しました。野田村からも多くの卒業生を出しています。

昭和54年8月には全国高等学校野球選手権大会（甲子園）出場の快挙を成し遂げて、近年も強豪校として、花巻東高校や盛岡大附属高校等と肩を並べて活躍しています。今年の岩手県大会では、佐々木投手を擁する大船渡高校に延長の末惜敗、残念ながらベスト4に届きませんでした。

久慈高同窓会東京支部は昭和46年（1971年）に設立され、関東首都圏に在住、活躍している卒業生の心の拠り所として活動を続けています。

野田はまなす会との協力関係も深く、第5代会長に桜庭昌吾前はまなす会会長、第7代会長に加藤和子東京幹事が就任しています。

令和元年の総会、同窓生の集いには、遠藤譲一久慈市長、小田祐士野田村長がご来賓としてご臨席され、盛大な集いとなりました。はまなす会の会員の中に多くの同窓生がいますので、是非来年の集いには参加して下さい。

久慈高校同窓生が一同に会しました

第二代目会長 種綿 勇氏をしのんで

前副会長　中村　勇

ふるさと野田村や生まれ育った横合をこよなく愛した第二代会長　種綿勇さんにおかれましては、誠に残念ながら、難病に罹り、数年来病魔と戦ってきましたが昨年の11月25日にご逝去されました。78才でした。心からお悔やみ申し上げます。

種綿さんと私は、同じ横合地区の出身で、強い絆で結ばれたように、何でも話すことができる仲でした。特に東京に来てからは、苦労話、成功や失敗の話などなど時を忘れて語り合ったことが昨日のことのように瞼に浮かびます。

はまなす会の創立の時は、率先して手を上げ、故郷に思いを込め、会の立ち上げに積極的な意思表示をして、設立に大きな貢献をしました。設立の産声を上げた頃から、会のため、会員のために諸行事に積極的に関与して、会存続の基礎を築いてきました。平成11年度から第二代会長の要職に就任して、3期6年間にわたり会の牽引車として奮闘いただきました。その間、初めての試みとして、会創立15周年記念となる野田村の「国民宿舎・えぼし荘」で総会を開催しました。種綿さんは常に役員の負担、会員の拡大、会費での会運営に気配りしていました。

種綿さんは、病で寝込むまで野田人そのものでした。素朴な風貌で、人に優しく、素直で、真面目一辺倒で、心を許せる信頼のおける方でした。そんな彼が、田楽豆腐やクルミ餅、瓜や柿、栗など語り始めると饒舌になり今にも野田へ帰りそうな勢いでした。きっと胸の中いっぱいある子どもの頃生活した横合の日常生活を思い出していたことでしょう。私は飲んべえですが彼は余り飲まず、カツ丼が大好きでした。

何事も飾らず、誰にも優しく接していた種綿さんでした。種綿さん、長い間ありがとう。

安らかにお眠り下さい。心からご冥福をお祈りいたします。さようなら。

岩手県人連合会

「岩手県人の集いに参加して」

東京幹事　戎谷　牧子

令和元年6月2日（日）に開催された「第45回　岩手県人の集い」に野田はまなす会から7名参加しました。

達増岩手県知事や県内市町村の多数の来賓の方々と岩手県人会加盟団体から約300名の参加者で、とても盛大な集い（総会）でした。

総会は「開会宣言」後、物故会員並びに被災者への黙祷で始まりました。その後の挨拶の中で復興状況のお話もあり、私たちも現状を知ることができました。

総会決議では、【岩手県人連合会は「ふる里を愛する心」を失わず、全員一丸となって県勢躍進をになっていこう。】をスローガンに8項目の基本課題が提案されて、決議されました。その中の一つが【三陸防災復興プロジェクト2019やラグビーワールドカップ2019、釜石開催を通じて、「東日本大震災津波からの復興」を支援しましょう】です。

ワールドカップ釜石大会を成功させて、岩手県の人々を元気づけようという強い思いが感じられました。4年に一度の世界の大きなスポーツ大会が岩手県で開催されるのは本当にすごいことだと思います。世界の人々が岩手に来て是非楽しんでほしいと願っています。私たちも皆で応援して、盛り上げていけたら嬉しいと思います。

懇親会では、金津流横浜獅子舞などのイベントがあり、料理やお酒をいただきながら、和気藹々と他の会の方々とも会話を楽しみながら交流を深めることができました。

最後は、出席者全員でふる里を想いながら合唱し、閉会となりました。

岩手県人の絆の強さを感じた楽しい一日でした。

第２回役員会　開催される

令和元年度・野田はまなす会第二回役員会が、８月10日(土)11:00から虎の門の「霞が関ビル東海大学校友会館」で開催され、幹事・役員11名が出席しました。

【報告事項】

①６月２日の「岩手県人の集い」について

【協議事項】

①総会、交流会の反省について

参加者数52名で若干少なかった。卒業年度ごとの同級会を同時開催して会員の参加数を増やしていきたい。会員の舞踊やバンド演奏が会を盛り上げてくれた。特産品即売は塩ラーメンや椎茸などもう少し多くしてほしい。会全体として概ね円滑で楽しい交流会であった等の意見あり。

②はまなす通信　№59号について

③日帰りレクリエーションについて

④新会員、役員の発掘について

具体的作業を始めること。

⑤令和２年度総会・交流会について

令和２年６月28日(日)13:00から。会場は今年と同じ霞ヶ関・東海大学校友会館にて開催。準備会は令和２年４月５日（日）の開催。

以上が討議の上、承認されました。

訃報

野田はまなす会の前東京幹事野崎俊雄様（享年75歳）が令和元年5月22日に逝去されました。

ご逝去を悼み、謹んでお悔やみ申しあげます。

昭和49年4月1日朝7時過ぎ、夜行寝台急行「八甲田」が上野駅に着きました。入社式出席のために、前日の夕方に久慈駅を出てから半日余りの旅でした。10時の入社式まで時間があったので、上野公園のベンチで横になっていたところ、背広を着た紳士が近寄り、「兄ちゃん、自衛隊に入らないか」と声を掛けて来ました。家出少年にでも見えたのでしょうか？「これから住宅公団（現在のUR）の入社式に行きます」と言うと、「いい会社に入ったな。頑張れよ」と励ましてくれました。これが東京の人と初めて交わした会話でした。

それから46年が経ち、現在も同じ会社で働いています。入社2年後には働きながら夜間の大学にも通い始めました。朝9時半から夕方5時まで仕事、5時半から9時半までは大学で勉強、その後は学友と麻雀や飲み会と眠る時間が無いほどでした。

そのような生活の中で、たびたび寝坊をして会社に遅刻していたところ、課長から「飲んだ次の日は這ってでも出て来い」と一喝されました。ただ「出社後、具合が悪かったら保健室で寝ていてもよいから」とフォローもありました。それからは心機一転心を入れ替え、遅刻や無断欠勤はせず、真面目に仕事に取り組みました。ちなみにその時の課長は、私の結婚式の仲人で、その後も長くお付き合いさせていただきました。

入社後の会社では、住宅団地開発、駅前再開発、商業施設開発と開発系の仕事に数多く携わりました。辛いこともありましたが、上司、同僚、部下に恵まれ、やり甲斐のある仕事をすることが出来たことは幸せでした。今でも昔担当した場所に行くと、懐かしくもあり誇らしくも感じます。

都会の喧騒の中で、たまに思い出すのは、緑の山々と碧い海の野田村のことですが、平成23年3月11日に起きた大津波には心が折れました。悲惨な話題が多い中、同級生の保育園の園長たちが、園児を引き連れ全員無事に避難したとテレビ放送で知り、心が洗われる思いがしました。

毎年お盆に帰るたびに復興が進んでいることを、とても嬉しく思っています。

私は北海道の苫小牧で生まれ、2歳のときに父の故郷、野田村の横合に引っ越して来たそうです。母は苫小牧で生まれ育ったので、見知らぬ土地で大変な苦労をしたと思います。両親は今も健在ですが、最近母が体調を崩し、施設に入所しました。私は4人兄弟の長男ですが、ずっと東京暮らしで、両親のことでは野田にいる次男夫婦にお世話になりっぱなしで感謝しきりです。また、八戸にいる妹夫婦にも同様です。

野田中学時代は、弱いながらも柔道部に所属し、練習が終わった後に裏の店で食べたチョコケーキパンの味が懐かしく、一番楽しい時代だったなと思い出されます。

私の家族は、カミさんと息子が2人です。息子の内1人が結婚し、孫が2人でき、今かわいい盛りです。もうすぐ結婚40年、誰かが「結婚生活は修行だ」と言っていましたが、なるほどと同感できます。残りの人生も長い（と思われる）ので、なるべく地雷を踏まぬよう気をつけながら、楽しく過ごせたらと願っています。

会員の声

野田村を離れて46年（回想）

下向　薫
横合出身・
野田中昭和46年卒

あとがき

◆5月1日、新天皇が即位し、「令和」と改元されました。「令和」の典拠は「万葉集」で「初春令月、気淑風和、」（初春の令月にして、気淑く風和らぎ、）と言われています。

◆はまなす会が設立されたのが平成元年で、この会報が発行されたのが会設立初年度の3月でした。年2回、休むことなく今号の59号まで発行され続けています。

◆会報はふる里を同じにする会員相互の心の絆です。ふるさと野田村の様子や情報を共有し、会員の声や作品などを通して交流が強くなります。皆さんのご意見や要望等を取り込んだ会報作りに努めたいと思いますので、ご意見をお寄せ下さい。

◆平成24年度から、毎回総会・交流会にお出でいただいていました前村議会議長の貳又正人氏は、このたびの村議選で勇退されました。今までの会へのご支援ご協力に対し、心より感謝申し上げます。

（S・S）